

危機管理・建設交通常任委員会 管外調査
令和元年7月25日から26日

1 岡山県議会（岡山県岡山市）

【調査事項】「平成30年7月豪雨」災害検証委員会の提言等について

【調査目的】

岡山県の平成30年7月豪雨に伴う災害に係る委員会の検証や、被災した公共土木施設の災害復旧事業の取組等について調査を行い、本府の地域防災力向上の取組の参考とする。

【調査内容】

岡山県では、平成30年7月豪雨災害における、災害対策本部の初動対応をはじめとする県のこれまでの対策を検証し、被災世帯を対象とした本格的な住民意識調査を通じて把握した避難の実態等も踏まえながら、将来発生しうる風水害や土砂災害、南海トラフ沿いの地震・津波等の大規模災害に備え、二度と同じことが繰り返されないよう、住民の避難対策や県の防災体制の強化などについて検討し、今後実施すべき取組を提言として、①県災害対策本部の機能充実、②市町村との連携強化、③河川管理等の取組強化、④自助・共助の取組促進についてまとめられた。

県では、提言を踏まえ、県の初動体制と市町村支援の強化や河川管理等の取組強化、地域防災力の強化に取り組まれており、総合統制グループの設置やリエゾン（情報連絡員）派遣、Web会議システムの導入、非常時優先業務の見直し、受援体制の整備等については、県地域防災計画や災害時広域受援・市町村支援計画等に反映させ、本年6月に実施された水害特別防災訓練において、総合統制グループの編成やWeb会議システムの導入など、新たな試みに取り組まれている。

また、新たに自主防災リーダー研修会の開催や地区防災計画等の作成支援など、自主防災活動の充実強化を図り、地域防災力の強化に努められている。

県議会でお話を伺った後は、平成30年7月豪雨により、堤防の決壊や越水等により甚大な被害を受けられた倉敷市真備地区に移動し、河川の緊急対策工事の状況について説明を伺った。堤防調査委員会において、各河川の被災要因の検証を行い、堤防決壊の要因や被災後の現地状況の変化に対して、効果的かつ効率的な対策を選定するなどの基本方針を基に緊急対策工事を実施されている。平成31年2月には、決壊した堤防の本復旧工事に着手され、末政川や高馬川では、本年6月に既設堤防高までの復旧完了し、堤防嵩上げ・堤防強化が完了したとのことであった。

今後は、再度の災害防止を図るため、小田川の水位を抜本的に引き下げる小田川合流点の付替事業の完成を前倒し、概ね5年間を目標に「真備緊急治水対策プロジェクト」に基づき重点的な堤防整備（堤防嵩上げ、堤防強化等）を推進されるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・リエゾン（情報連絡員）の市町村連携による被害の把握状況等について
- ・非常時優先業務の見直し内容（グループ補助金等）について
- ・県内の自主防災組織の状況について
- ・災害時の個人情報取扱の今後の方向性について

- ・ 地区防災計画作成に係る市町村への支援内容及び課題について
(現地調査)
- ・ 河川改修事業における堤防嵩上げ選択理由について
- ・ 上流部のダム等における洪水調節について
- ・ 河川パトロール等の体制について
- ・ ドレイン工の必要性について
- ・ 災害発生前の堤防整備状況について ほか



調査事項を聴取



緊急対策工事の状況を視察

2 国土交通省九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所（福岡県福岡市）

【調査事項】 都市公園の整備・管理におけるPFI事業の活用について

【調査目的】

公園と水族館との連携により公園全体の利用者の増加とサービス水準の向上を目的とした国営公園初のPFI事業の取組等について調査を行い、本府の官民連携による都市公園の管理運営等の参考とする。

【調査内容】

同公園は、昭和56年に開園した国営公園で、平成30年度の利用者数は約240万人と、北部九州における主要な観光施設となっており、地域の観光促進に貢献している。

同公園では、平成28年に海洋生態科学館（マリンワールド）や研修宿泊施設等（ホテル、マリナー、テニスコート）において、民間の資金と経営能力・技術的能力を活用するPFI事業を、国営公園として初めて導入された。

同事業により、20年間に及ぶ長期間の管理運営により、安定した経営、計画的な投資が可能となり、PFI事業者負担の投資による大規模リニューアル工事を実施した。また、民間の自主性を発揮し、迅速かつきめ細かい利用者サービス向上対策や民間のノウハウを活かした効果的な利用促進方策・広報事業を実施されている。

海洋生態科学館（マリンワールド）では、「九州の海」をテーマに九州各地の多様な海を表現し、また、「インスタ映え」を意識した企画や公園と連携したイベントにより、より一層の魅力発信などに取り組むなど、リニューアルオープンの効果により、平成29年度は、平成27年度比1.5倍の水族館入館者数を記録したとのことであった。

また、研修宿泊施設等については、平成30年4月からPFI事業として運営開始され、平成31年4月にリニューアルオープンしている。

さらに、海の中道を遊び尽くすための滞在型レクリエーション拠点の整備・運営のため、パートナーである民間事業者との連携による新たな取組を推進し、公園の魅力は今後も継続的に向上させていくことを目的とした「海の中道海浜公園 官民連携による魅力向上推進方針」を平成31年3月に策定し、今後、同方針に基づきさまざまな官民連携の取組を推進されるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ P F I 事業への提案事業者数について
- ・ 事業者からの提案に対する調整内容について
- ・ 改修に係る事業者の資金回収について
- ・ 国の年間貸付収入について
- ・ P F I 事業実施前後の収支状況及びマリンワールド海の中道の職員及び運営体制について
- ・ 歴史的背景を有する地域との連携について ほか



調査事項を聴取



海洋生態科学館を視察

3 北九州市役所【於：門司港レトロ観光物産館】（福岡県北九州市）

【調査事項】都市再生整備計画事業によるまちづくりについて

【調査目的】

北九州市では、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした地域主導の個性あふれるまちづくりの実施による、地域住民の生活の質の向上と地域の活性化に取り組まれており、本府のまちづくり政策の参考とするため調査する。

【調査内容】

北九州市では、今後、人口減少や高齢化率の増加、生産年齢人口比率の低下が推計されていることから、「北九州市都市計画マスタープラン」を策定し、市民生活や産業など、さまざまな都市活動の拠点となる区域において、人・もの・情報など、多様な交流が活発に行われるまちづくりを進めている。

門司港地区では、港町としての歴史・文化を継承する広域観光拠点として多くの人が訪れるまちづくりが進められている。門司港レトロ事業において、現存する歴史的建造物や関門海峡の景観を活かしたまちづくりを、地元市民や民間企業等との協働により取り組まれた結果、多くの観光客が訪れる観光スポットとして成長したが、来訪者の多くが日帰りとなり、さらなるまちの活性化を図るため、都市再生整備計画により事業が実施された。

道路事業では、舗装補修や橋梁補修による道路交通の円滑化、歩道舗装による安全性や利便性の向上、面的な回遊の向上・促進が図られた。また、地域創造支援事業として、旧大阪商船の外壁の大規模改修や内装改修等により、門司港地区の魅力向上が図られ、観光客の増加につながっているとのことであった。

今後は、既存施設の利活用による芸術発信拠点の整備を行い、観光促進を図るとともに、歴史的建造物や特徴的な意匠を持つ観光施設を活かした関門地区の景観づくりを進めていかれるとのことであった。また、今年度から、老朽化が進み、近い将来建て替えが必要な公共施設を門司港駅付近に集約し、複合化・多機能化するなど、利便性の向上及び市民サービスの効率化を図ることを目的とした、門司港地域複合公共施設整備事業の取組を始めている。

【主な質問事項】

- ・都市再生整備事業のメリットについて
- ・下関市との連携について
- ・高層建築物に係る規制について
- ・門司港へのクルーズ船寄港回数及び外国人観光客数について
- ・都市再生整備事業実施に係る地元住民の反応について　ほか



調査事項を聴取



門司港地区を視察